

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072100484		
法人名	社会福祉法人 同仁会		
事業所名(ユニット名)	グループホームカルフル・ド・ルポ印南 東ウイング		
所在地	和歌山県日高郡印南町大字山口字神子平150-1		
自己評価作成日	平成23年7月10日	評価結果市町村受理日	平成23年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3072100484&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地は緑豊かで、自然に囲まれた環境で落ち着いた生活ができます。職員はチームワークを大切に日々の業務に取り組んでいます。建物はリゾート風でテーブルやベンチを設置し気軽に気分転換ができる開放的な生活空間作りを目指しています。また身近に自然を感じ、季節感を感じることができるように、事業所で稲作等を行っています。利用者の個々の楽しみとしては手芸・書道・貼り絵・カラオケ等、趣味活動を職員が支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は豊かな自然に囲まれ、利用者は季節感を味わいながらゆったりとした生活を送っている。又ユニットで飼っている犬の存在は、自宅生活を思わせる役割を果たしている。重度化が進む状況の中で職員は利用者の思いの実現を目指し、チームでのケア実践に取り組んでいる。医療面では、母体が医療機関である事を活かし、十分な連携のもと迅速に対応できる体制となっている。立地条件との関係もあり、地域との交流に課題はあるが、必要性の認識は管理者及び職員間で共有されており具体的な方策を立て取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の運営理念を作り日々の業務にあたっている。毎朝、申し送り時にケアの内容が理念にそっているかを確認しケアに反映している。	利用者及び来訪する家族との共有を図る為理念はホールに掲げている。唱和等をするまでもなく、理念は管理者と職員に共有されており毎朝夕の申し送り時にはケアの内容が理念にそっているかを確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の特養でのボランティアなどに参加し地域住民との交流を行っている。	併設する特養での介護教室の開催時やボランティアの訪問時に参加し交流を図っているが、日常的な交流にまでは至っていないのが現状である。近接する幼児施設との交流や、町が催すフェスティバル等への参加を通して地域とのつながりを実現する事を事業所として検討している。	事業所と地域の人々が互いに支え合う双方向関係の構築に向け、現在検討中である課題の実行、更には地域で必要とされる活動や役割を事業所として積極的に担ってゆく等、取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で話し合いなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、外部評価の考察や年間行事について意見交換を行いサービスの向上にいかしている。	2ヶ月に1回運営推進会議が開かれ民生委員・包括センター職員・家族等の参加を得ている。会議では外部評価や年間行事等について報告すると共に、自由な雰囲気場の場づくりに努め、出された意見をサービス向上の取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との関わりは多くはないが、協力関係は築けている。	利用者の認定更新時や外部評価届け出等の際に、事業所のサービスへの取り組み状況を町の担当者に伝えている。最近ではスプリンクラーの設置につき町職員の立ち合いを得て指導を受ける等協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の研修を行い身体拘束のないケアを実践している。	月1回研修を実施しており、少なくとも1回は身体拘束となる具体的な行為の正しい理解に向けての研修としている。又職員の希望で外部研修に参加した場合は、伝達研修を行い、内容の周知を図っている。ちなみに玄関の施錠については、日中行わず出入りは自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は行っているが十分な知識の獲得にはいたっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をとって話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況を伝え、家族の意見や要望を聞いている。それらを支援に反映している。	意見箱を設置しているが利用が少ないため、面会時や介護計画作成時の話し合いの際に家族の意見や要望を聞き、運営に反映させている。又ケアの観点から実現が困難な意見・要望については、理由を必ず伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りで意見を確認し、その意見を検討し運営に反映している。	毎朝夕の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、検討を経て運営に反映させている。代表者への具申を要する場合は、管理者がその任にあたり実現に向け取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の適正を見極め適切な業務配置をすすめ向上心がもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で研修を行っている。施設外研修も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・相互実習はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりの初期段階には、訪室の回数を増やすなど、傾聴することに心がけている。また、他利用者との交流機会も多くもてるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前より家族の意向を聞き不安な部分や心配な部分を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入前には、話し合いを行いグループホームサービスのサービス説明を十分に行い他のサービス利用も含めた話し合いを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族に近い関係作りができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡をとり共に支える関係作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの行事や生活の状況をホーム便り等で連絡している。	自宅の様子を見るため帰りたいとの希望に対しては、職員又は家族が同伴し、帰宅が実現している。知人の来訪への依頼も事業所で行い実現に向け支援している。ホーム便り等は利用者全員の家族に送付し、関係が途切れないよう状況報告を必ず行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係を考慮し食堂の椅子の配置を行っている。また生活の中での役割を互いに理解してもらうように声かけ等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した利用者・家族との関わりは特に行えていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から聞き取り等を行い本人が望む暮らしができるように努めている。	項目の細分化を図り、きめ細かく記入されたアセスメントシートに加え、日常生活の中での聞き取りや観察を通して本人の思いや意向を把握し、利用者一人ひとりが望む暮らしができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを十分に行い入居前の状況把握を行っている。入居後も家族等に話を伺い支援に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の記録を記入し変化する利用者の能力の把握に努めている。能力や意欲にあった支援を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人・職員が話し合いの場を設けて介護計画を作成している。	家族の都合に合わせて日時を決め話し合いの場を設定し、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。基本的には6ヶ月毎の更新であるが、入居中の状況の変化に合わせて随時計画の変更を行い、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況を記録し、その情報をもとに、介護計画の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、対応できるように事業所では検討を行い取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの稲作など利用者一人ひとりがもたれている希望や能力に合わせて地域とできる限り関わられるように支援を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の納得の得た主治医と連携し対応している。	入居前のかかりつけ医との関係の継続という方針を事業所としては持っているが、家族の希望により地域の医師をかかりつけ医に選んでいる。基本的には往診を受けているが、必要時には職員同伴で受診している。加えて母体である医療機関の医師の診察も確保されており、適切な医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活状況・バイタルサイン等情報交換を行い看護職種と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は必要な情報交換を医療機関と行っている。退院時に備え、家族・医療機関・ホームが必要に応じて話し合いを行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化・終末期に関しては、早い段階から行い家族の意向等を確認している。医療機関との連携を行い希望にそって支援できるようにしている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入院等の事態が生じた機会をとらえ、本人・家族等と話し合い、方針を確認している。医療機関との連携のもと方針を共有しながら重度化や終末期を支えていける体制を整えており、現に看取りを行った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で緊急時に対する研修を行っているが、全職員が実践力をつけるまでにはいたっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実施しているが地域との協力体制はとれていない。	年2回夜間を想定した災害時避難訓練を実施しており、内1回は消防署職員の参加・指導を受けている。併設の特養との協力体制はとっているが地域と協力体制をとるまでには至っていない。	現在特養と町の間で防災協定の締結が検討されており、事業所としても参加を視野に入れている。又高台という立地条件をいかし避難場所としての提供も考えている。これを機会に協力を進め、更なる地域との協力体制の構築に向け、取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	従業員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した関わりを行っている。	利用者の呼称については、職業に関連する呼び方をする事もあるが原則的には氏名での呼びかけである。排泄にかかわる言葉かけには特に注意を払っている。個人情報の保護については施錠を徹底している。常に第三者の視点を念頭に置いての対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中では、なるべく利用者の思いや自己決定を尊重した生活が実現できるような関わりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者の希望にそった生活ができるように支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそった身だしなみやおしゃれができるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく嗜好にそった食事が提供できるように食事時などに嗜好を聞いている。簡単な食事の準備や片付けを行ってもらっている。	好みに応じた食事が提供できるよう、利用者に合わせて味付けやメニューの変更を行っている。敷地内の畑での収穫物が献立に加わる事もあり好評である。利用者の重度化により、食事の準備や片付けに参加してもらう事は難しくなってきたが、可能な利用者には簡単な片付け等を行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等は記録している。また利用者の習慣を把握し支援を行なっている。水分も適宜声かけを行い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせて口腔ケアの支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿表を作成し、排尿パターンを確認している。できる限りトイレでの排泄を目指した支援を行なっている。	利用者の重度化に伴い、おむつの使用が必要な状況となっているが、できるだけリハビリパンツの使用にとどめ、排尿表に基づき誘導する事により、トイレ又はポータブルトイレ(夜間)での排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた定期的な水分摂取及び軽度の運動等の声かけを行っている。食物の工夫もできる限り行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、希望にそって対応している。希望することが困難な方には気分よく入浴ができるように本人の機嫌などに合わせて対応している。	利用者の希望があれば毎日でも入浴が可能な体制をとっている。入浴を拒みがちな利用者に対しては、タイミングを図って言葉かけをする等工夫をしながら一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活状況にあわせて安心できるように声かけや工夫を行ない支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表を作成し、薬に対する理解をすすめているが全職員が全ての薬の効能・副作用を理解するにはいたっていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望にそった趣味や楽しみごとができるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に戸外に出れる環境ではあるが、家族や地域の方々との連携は不十分である。	職員が同伴するか、家族が面会時に同伴してホーム周辺の散歩を行っている。普段は行けないような場所へは、家族の協力が出かけられるよう支援している。又敷地内ではあるが季節に合わせて茶話会等を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者及び家族と相談の上、希望にそって金銭を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用してもらっている。手紙の投函援助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は利用者の作品や写真などを掲示し、馴染みの環境を整え、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	共用の生活空間では、五感刺激への配慮を徹底すると共に、季節の花や利用者の作品(ちぎり絵・習字等)、行事の写真等を飾り共通の話題を提供している。又フロアにはほどよく椅子が配置され、くつろいだ雰囲気居心地よく過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しくつろげるスペースを作っている。ホーム内には所々に椅子を設置し座れる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みがあるものを自由に持ち込んでもらっている。入居前に十分に家族と相談を行い、なじみのものを持ってきてもらえるように説明を行っている。	入居前に本人・家族と相談し、馴染みの物を持ち込んでもらい配置している。利用者により持ち物の多い少ないはあるが、それにはとられず本人が居心地よく過ごせる居室づくりに職員は取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかりにくい場合には、出身地名を表札として使用したり、行事の際の写真をはるなど工夫をしている。なるべくわかりやすいように環境の整備を行っている。		